

# 心をみつめる。

その六



北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

## 人間の心は6番

お念仏を称えても、なぜ救われたという実感が湧いてこないのか？ インドのお坊さん方は「6番・7番の心は仏さまの心と通じない」と言われました。また、お念仏の教えを説かれた親鸞聖人は「日ごろのころでは往生はできない」と言われました。日ごろのころとは、私たちが毎日生活している心です。お腹がすいた・眠たい・嬉しい・悲しい・腹が立つ・今日はこうしよう・明日はこうしよう、このような普通の生活を送っている中で、悲しいから・つらいから・苦しいから、この気持ちやこの状態を何とかしたいと思ってお念仏を称えても、救われてはいかない。つまりインドのお坊さん方と同じことを言われています。(もともと私たちは、ふつうここから信仰の世界に入っていきます。)

この心は仏さまと同じ心だとも言われます。同じだから通じる。この心はどんな人でも持っている心ですが、みんな眠っている。そしてこの心は自分の中にある心ですが、自分の自由にはならない。仏さまの力によってしか開かれませんが。人間にできることは、この心が開かれる可能性が高い状態になり、その状態を続けていくことだけです。そして仏さまの力によって、その時が来るのを待つ。一度この心に触れると、二度と見失うことはないそうです。

お釈迦さまは座禅によって、親鸞聖人はお念仏によって、この心を見出されました。

この心が目を覚ますと仏さまの心と繋がります。生まれてからこれまで一度も

味わったことのない、大きな喜びと深い感動に包まれるのだそうです。これが宗教による救いです。これまでの良かったことも悪かったことも、悲しかったことも、つらかったことも、苦しかったことも、すべてが今この喜びに出合うためであったと納得されて、自身の過去がすべて肯定されて人生がリセットされる。そしてそこから生まれてくる感謝の心で周囲の人に接していく。一人でも多くの人にこの喜びを味わってもらいたい。そのためには何をやっていくべきかがハッキリと分かる。

仏さまと共に生きていく。私はいつも仏さまに守られている。私自身は以前と何も変わらない至らない身ではあるけれども、さまざま問題について



真宗興正派 光峯山 興泉寺 住職 伊井 涼州(りょうしゅう)さん

「年に6回、ビデオを見て住職がお話をする会があります。ご興味がおありの方は、お問い合わせ下さい。」



興泉寺  
北九州市若松区古前 1-12-16  
TEL 093-761-1615

仏さまの知恵をいただくことができ。力が湧いてくる。勇気が湧いてくる。いくつになっても、どんな境遇であっても、ここから私の新しい本当の人生が始まる。宗教による救いは、第二の誕生とも言われています。

## お寺の御宝



姫路にある真宗大谷派のお寺のご住職 鷺野 暁様がお書きになった「御名号」。ご住職が大変お世話になった方で、「南無阿彌陀佛」の六文字が書かれています。